

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	三菱電機ロジスティクス(仮称)国際	階数	地上2F
建設地	愛知県弥富市操出六丁目4番1,5番1	構造	S造
用途地域	法22条の地域/指定なし	平均居住人員	14人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	3,000時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年3月 予定	評価の実施日	2014年4月1日
敷地面積	19,360.75 m <sup>2</sup>	作成者	永井裕之
建築面積	12,073.62 m <sup>2</sup>	確認日	2014年4月18日
延床面積	19,537.02 m <sup>2</sup>	確認者	永井裕之



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.6**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 83%

③上記+②以外の 67%

④上記+ 67%

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 2.9

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.9

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.8

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>4.3</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>28.9%</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0%</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	28.9%	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0%
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	28.9%				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0%				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.5</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用

Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	果独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.9</b>
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
1.1 騒音								
1 室内騒音レベル						3.0		
2 設備騒音対策								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能						3.0		
2 界壁遮音性能						3.0		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0		
1.3 吸音						3.0		
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御								
1 室温						3.0		
2 負荷変動・追従制御性								
3 外皮性能						3.0		
4 ゾーン別制御性								
5 温度・湿度制御								
6 個別制御								
7 時間空調に対する配慮								
8 監視システム								
2.2 湿度制御						3.0		
2.3 空調方式						3.0		
<b>3 光・視環境</b>								
3.1 昼光利用								
1 昼光率						3.0		
2 方位別開口						3.0		
3 昼光利用設備						3.0		
3.2 グレア対策								
1 照明器具のグレア								
2 昼光制御						3.0		
3 織り込み対策								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
<b>4 空気環境</b>								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質						3.0		
2 アスベスト対策								
3 タニコヒ等								
4 レンオネラ対策								
4.2 換気								
1 換気量						3.0		
2 自然換気性能						3.0		
3 取り入れ外気への配慮						3.0		
4 給気計画								
4.3 運用管理								
1 CO <sub>2</sub> の監視								
2 喫煙の制御								
<b>Q2 サービス性能</b>					0.43			<b>3.9</b>
<b>1 機能性</b>								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性						3.0		
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観						3.0		
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
3 衛生管理業務								
<b>2 耐用性・信頼性</b>					3.0	0.52		3.0
2.1 耐震・免震					3.0	0.48		
1 耐震性					3.0	0.80		
2 免震・制振性能					3.0	0.20		
2.2 部品・部材の耐用年数					3.2	0.33		
1 躯体材料の耐用年数					3.0	0.23		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					2.0	0.23		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					5.0	0.09		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.08		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					5.0	0.15		
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.23		

2.4 信頼性				2.8	0.19			
1 空調・換気設備				1.0	0.20			
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20			
3 電気設備				3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5 通信・情報設備				4.0	0.20			
			LAN主要設備は事務所棟2階に設置、主幹線は光ケーブルを採用					
3 対応性・更新性				4.8	0.48			4.8
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31			
1 階高のゆとり				5.0	0.60	3.0		
2 空間の形状・自由さ			倉庫のため階高を高く設定 倉庫のため床面積に対する壁長さが短い	5.0	0.40	3.0		
3.2 荷重のゆとり				5.0	0.31	3.0		
			床荷重は1500N/m2以上					
3.3 設備の更新性				4.7	0.38			
1 空調配管の更新性				-	-			
2 給排水管の更新性				5.0	0.20			
3 電気配線の更新性			倉庫内は露出配管とし梁貫通としている	5.0	0.13			
4 通信配線の更新性			倉庫内は露出ケーブル配線としており、貫通は主要幹線ルートの	5.0	0.13			
5 設備機器の更新性			倉庫内は露出ケーブル配線としており、貫通は主要幹線ルートの	5.0	0.27			
6 バックアップスペース			受変電設備設置場所は屋外に面している。 敷地内に十分なバックアップ用電源設備スペースあり	4.0	0.27			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57			2.2
1 生物環境の保全と創出	●	③		1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮	●	④		3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	●	④		3.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-			3.8
LR1 エネルギー				-	0.40			4.2
1 建物の熱負荷抑制				-	-			-
2 自然エネルギー利用				4.0	0.29			4.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				3.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用			屋上及び外壁に買電用太陽光発電設備295kWを設置	5.0	0.50			
3 設備システムの高効率化			屋内・屋外ともにLED照明を採用	5.0	0.43			5.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				5.0				
ERR=51.9%								
集合住宅の評価								
4 効率的運用				3.5	0.29			3.5
4.1 モニタリング				3.0	0.50			
4.2 運用管理体制			運用についてマニュアル化を行う	4.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル				-	0.30			3.4
1 水資源保護				3.4	0.15			3.4
1.1 節水			節水コマ及び節水便器を採用	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減				3.0	0.63			3.0
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.21			
2.4 非揮発材料におけるリサイクル材の使用	●	②		1.0	0.21			
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組	●		躯体と内装材はが分別可能	5.0	0.25			
3 汚染物質含有材料の使用回避				4.3	0.22			4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避				5.0	0.68			
1 消火剤				-	-			
2 発泡剤(断熱材等)			断熱材のODP=0	5.0	1.00			
3 冷媒				-	-			
LR3 敷地外環境				-	0.30			3.6
1 地球温暖化への配慮		①	ERR=51.9%	4.3	0.33			4.3
2 地域環境への配慮				3.1	0.33			3.1
2.1 大気汚染防止			燃焼器具及び有害排気無し	5.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25			
1 雨水排水負荷低減	●			3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制	●		各種車輛の駐車スペースを確保	3.0	0.25			
3 交通負荷抑制	●			5.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25			
3 周辺環境への配慮				3.4	0.33			3.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			
1 騒音	●			3.0	0.33			
2 振動	●			3.0	0.33			
3 悪臭	●			3.0	0.33			
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制				3.3	0.40			
1 風害の抑制				3.0	0.70			
2 砂塵の抑制				1.0	-			
3 日照阻害の抑制			2時間/3時間を満たし1ランク上と評価	4.0	0.30			
3.3 光害の抑制				4.4	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策			広告照明なし、外灯は周辺水田部への光の漏れを検討	5.0	0.70			
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>4.3</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.3	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.5</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.8	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア=  $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>①周辺環境との調和 ②敷地外への環境負荷の削減 ③省エネルギー性の向上</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>倉庫のため対象外</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>倉庫という用途上、躯体の耐用年数に配慮し、露出配管、配線等設備の更新性に配慮している</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>敷地外からの景観に配慮し、緑化を行うことで環境への配慮を行っている</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>太陽光発電、LED照明を採用し環境負荷の低減を行っている</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>節水型便器、器具を採用し、水資源の保護に努めている</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>交通負荷の削減に努めるとともに、周辺への光害に配慮している</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>